科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	ジャーナリズムの最前線 Front Line of Contemporary Journalism			担当者所属 職名・氏名	文学研究科　教授　　杉本　淑彦		
群	キャリア形成科目群	分野(分類)	その他キャリア形成			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・後期	曜時限	火3	配当学年	全回生	対象学生	全学向

[授業の概要・目的]

若者の活字離れが進む中で、メディアをとりまく状況が激変しつつある。ネット媒体におされ、日本の新聞をとりまく環境も厳しさを増している。一方、今だからこそジャーナリズムの必要性を再認識し、その役割を再構築するべきだという声もある。権力監視の機能や、国民の権利を守り健全な論評と正確な事実の掘り起こしをなす機能は、現代においてどうあるべきなのか。朝日新聞大阪本社の協力を得て、取材現場の最前線で仕事する記者たちを招き、現代ジャーナリズムが抱えている諸問題について考えてもらう。同時に文章を読み込むこと、活字媒体に慣れ親しむことの意義も深め、読み解く力を総合的に身につける内容にしたい。

[到達目標]

身近な文化装置であるメディアの現場からの声を聞くことで、メディアを読み解き活用する能力＝メディアリテラシーを身につけることができる。授業においては、可能な限り出席者と報告者との討論の時間を設定することで、聞く力とともに質問し問題発見できる力を養うようにする。

[授業計画と内容]

第１回	序論「今ジャーナリズムの役割とは」	
第２回	ジャーナリズム総論	朝日新聞大阪本社編集局
第３回	新聞の社会的機能（調査報道）	同社会エディター
第４回	経済取材の最前線（グローバリズム）	同経済エディター
第５回	メディアの現場から（１）	
第６回	生活報道の最前線（暮らしと文化）	同生活文化エディター
第７回	社説ができるまで	同論説委員
第８回	科学・医療記者の役割	同編集委員
第９回	国際報道の現場	同特派員経験者
第１０回	メディアの現場から（２）	
第１１回	総局の仕事（地域報道のいま）	同京都総局
第１２回	報道写真の読み方	同写真センター
第１３回	教育と新聞	同社会Ｇ教育班記者
第１４回	政治報道の内情	同政治Ｇデスク経験者

　メディアの現場からの講義は、新聞社以外のメディア従事者からの講義である。なお、朝日新聞大阪本社の事情により講義の順番・担当者などが変更になる可能性がある。

[履修要件]

特になし

ジャーナリズムの最前線(2)へ続く↓↓↓

ジャーナリズムの最前線(2)

[成績評価の方法・観点]

毎回、講義の終わりにコミュニケーションレポートの記入を求める。
これでもって平常点評価（出席状況と小レポート）とする。

[教科書]

毎回レジュメや教材（新聞記事など）を配布する

[授業外学修（予習・復習）等]

できるだけ新聞や総合雑誌などに目を通し、現在起こっている社会的・経済的・政治的事件についての知識を身につけておくことが、講義内容を理解する上で、望ましい。

[その他（オフィスアワー等）]